

イルミネこうべプロジェクト：神戸ルミナリエにおいて電飾を用いた募金箱を提供

神戸大学 塚本・寺田研究室

准教授 寺田努

連絡電話:078-803-6117

メールアドレス: tsutomu@eedept.kobe-u.ac.jp

2015 年 12 月 4 日～13 日まで開催される第 21 回神戸ルミナリエにおいて、電子技術を用いた特殊な募金箱を制作・提供するとともに募金活動ボランティアとしても参加する「イルミネこうべ」プロジェクトを行います。

「神戸ルミナリエ」は、阪神淡路大震災の犠牲者への鎮魂とまちの復興を願い、震災の発生した平成 7 年 12 月に初めて開催され、毎年数百万人が訪れる神戸の冬の風物詩として定着しています。ルミナリエの開催には多くの方々からの協賛金や募金により支えられています。

「イルミネこうべ」プロジェクトは、ルミナリエ存続の願いに応えるべく始まった募金箱制作プロジェクトです。人の動作を検出するセンシング技術や、検出した動作をもとに LED など機器を制御する技術など、ウェアラブル・ユビキタスに関する研究を行っている塚本・寺田研究室が、その先進的な技術を駆使して、ただ募金が集まるだけでなく、「募金した方に楽しさを受け取ってもらうことで、感謝の気持ちを伝えよう」というコンセプトで毎年新しい募金箱を製作しています。

本事業のねらい

◆募金活動であまり考慮されない「募金のかたち」を考える。

ただ四角い箱に募金を行って頂くのではなく、募金という行動に対してアクションを返すことで、募金という行動に楽しさの要素が生まれるのではないかという考え。

◆募金を呼びかける人にも喜びを与える。

募金箱になにかしらの仕掛けがあることで人を笑顔にできたら、募金を呼びかける人々にも従来とはまた別の喜びを与えられるかもしれない。ただお礼を言うのではなく、ご協力頂いた方を楽しませることで、より感謝の気持ちが伝えられる。

◆募金箱に最新のテクノロジーを搭載することで最新技術を人々に紹介する。

ただ募金を募るだけでなく、大学の工学部が最新技術のエッセンスを織り交ぜて募金箱を作成することで、現代社会を支える科学技術の人々に発信していきたい。

募金箱の例



神戸芸術工科大学×塚本・寺田研究室コラボ募金箱 2012
震災から復興していく神戸の町並みを表現しており、「復興・再生」をテーマに作成しました。
また、本募金箱は神戸芸術工科大学プロダクトデザイン学科の見明暢助教および同学科の学生の協力を得て、制作しました。(2012年度制作)



インフィニティツカラボキン
「イルミネこうべ」プロジェクトのマスコット募金箱であるツカラボキンが、2013年に作成した超絶LED募金箱と合体し、新しく生まれ変わりました。
募金箱の4面にハーフミラーを用いた合わせ鏡を使い、無限の奥行きを持つ万華鏡のような少し不思議な感じが漂う募金箱です。(2014年度制作)

2014年度の募金活動の様子

昨年の募金活動でもたくさんの方々に募金箱に触れていただき、驚いたり楽しんだりしていただけだと思います。また、たくさんのご協力をいただき、オリジナル募金箱の募金総額は過去最高額となりました。

